

第 19 回 社会福祉士 専門科目 (やまだ塾)

国家試験 問題・解説

=④社会福祉援助技術<事例 16>= (問題 135～問題 137)

【社会福祉援助技術】

(社会福祉援助技術・事例問題5)

次の事例を読んで、問題135から問題137までについて答えなさい。

(事 例)

Qさん(55歳, 男性)の家族は, 本人, 妻(50歳), 娘(28歳)の3人家族である。3年前に直腸癌と診断され手術をした。本人も家族も完治したと思っていたが, 食欲不振, 歩行困難, 痛みが出現した。入院検査の結果, 仙骨や骨盤に転移があることが明らかとなり, 末期状態で治療も望めず, 栄養状態も悪く余命6か月と診断された。病院のAソーシャルワーカー(以下, 「Aワーカー」という。)は, 医師より今後のことについての相談を依頼され, Qさんとの面接を行い, その面接においてQさんは, 心理的不安と混乱を示した(問題135)。

…(中略)…

妻と娘との家族面接では, 検査入院のつもりだったので, Qさんを一度は家に連れて帰りたいとの希望が聞かれたが, 在宅ケアに対する不安感が高かった。そこで今後の療養生活に関する方向性意思決定を行う必要性から, Qさんとの個人面接や家族との合同面接を数回実施した。そして, 最終的に, 本人や家族は, 在宅でのターミナルケアを決断した。

…(中略)…

在宅ケアを前提に, 本人や家族は, ある指定居宅介護支援事業所のB介護支援専門員を選んだ。その後の家族との面接で, 妻は, Qさんとの自宅での生活を希望するものの, 痛みの強いQさんを最期まで在宅で看護する自信がなく, 不安が一杯であることが分かった。そこで, Aワーカーは, Qさんに対する在宅ケアに関して, 医師をはじめ, 各担当者を交えたケースカンファレンスを開催することにした(問題136)。

その後, 退院が近づき, Aワーカーは, Qさんとの面接を継続し, 一方ではB介護支援専門員とも協力を図りながら, 様々な社会資源の活用を行うために, 退院後の在宅生活に対する援助計画を本人や家族とともに考えた(問題137)。

問題 135 この場面におけるQさんに対する援助に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Qさんの精神的状況を主治医と病棟の担当看護師に伝え、サポート体制を作る。
- B. Qさんの不安な気持ちが軽減できるようにQさんの話を聞き、カウンセリングや危機介入を行う。
- C. Qさんが自殺する可能性があるので、精神科の受診を勧める。
- D. Qさんの混乱状況を家族に伝え、直ちに家族に対する家族療法を始める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	○	×
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問題 136 この時点で開催されたケースカンファレンスに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A. Aワーカーは、ケースカンファレンスを行うに当たって、Qさんや家族への参加を求めるかどうかについて検討する。
- B. Aワーカーは、在宅ケアだけではなく、転院の方向性を提示し、家族が安心できる方法を示す。
- C. B介護支援専門員も参加して、現在の状況の確認と退院後の生活の方向性について病院内スタッフと協議する。
- D. Qさんの家族は、不安感が高いので、それを考慮して退院日を延ばすように、Aワーカーが代弁者として主治医に提案する。

(組み合わせ)

1	A B
2	A C
3	B C
4	B D
5	C D

問題 137 今後の援助のあり方に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. Qさんの医療ニーズに対応するために、退院後のかかりつけ医や地域の訪問看護師と密接な連携を図る体制を構築する。
- B. 在宅ターミナルケアは、家族の精神的負担が大きいのので、家族支援を念頭に入れた支援体制を考える。
- C. Qさんの医療ニーズは、極めて深刻であるため、精神科医を中心とする支援体制への移行を考える。
- D. 家族が在宅ターミナルケアを断念した場合に備えて、再入院やホスピスの入院についても考慮しておく。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○